

式 辞

春の気配が日ごとに濃さを増す今日の佳き日に、多数の御来賓の皆様のご御臨席を賜り、令和七年度愛媛県立松山南高等学校卒業証書授与式をかくも盛大に挙行できますことは、我々教職員一同、この上ない喜びであり、御臨席を賜りました皆様方に厚くお礼を申し上げます。

また、保護者の皆様には、入学以来、健やかな成長を願い、支えてこられましたその愛の深さに、改めて敬意を表しますとともに、本日、晴れて御卒業の日を迎えられましたことに心からお慶びを申し上げます。

卒業生の皆さん、おめでとうございます。皆さんの胸中には、この三年間の数々の思い出が次々と去来していることと思います。これからそれぞれ進む道は違いますが、この松山南高校で多くの友と熱く過ごした青春の一こま一こまを一生の宝物として、いつまでも大切にしてほしいと思います。私は、皆さんとは、二年間のお付き合いでしたが、毎日の皆さんの元気なあいさつやにこやかな笑顔、さりげない優しさにふれる度に、たくさんの勇気と力をもらいました。本当にありがとうございます。縁あって、南高で皆さんと巡り会い、学校生活を共にできたことを、深く感謝しています。

さて、今年のお正月に、マツコ・デラックスさんが出演するテレビ番組で、アルプスの山々を八時間かけてゆっくりと走るスイスの観光列車「氷河特急」が紹介されていました。番組では、スイスで鉄道の廃線がほとんどないことが取り上げられ、その理由として、議会が廃線を決めても、国民投票で覆るという話が紹介されました。「インフラは国民のもの」として鉄道を大切にする思いが、国民の間に根づいているとのことでした。しかしその一方で、マツコさんはこう言いました。「そのかわり、スイスの生活費はとても高い。その負担が鉄道を支えているんですよ。」と。実際、スイスの生活費は世界でも高い水準にあり、その負担が公共交通をはじめとする社会の仕組みを支えています。便利さや豊かさの裏側には、国民がその負担を受け止めるという合意があります。出演者は「物価が多少高くても鉄道が守られる国のほうがいい」と語り、マツコさんは「私は嫌です」と返しました。

私はこのやり取りに、現代社会の姿がよく表れていると感じました。

何が正しいかは、簡単には決まりません。価値観は人によって異なり、どちらか一方だけが絶対的な正解であることなど、今の世の中にはほとんどないのです。

加えて、現代社会は、変化のスピードが速く、先が見通しにくいとされています。このような、多様な価値観が存在し、正解が一つに定まらず不確実性が高い、いわゆるVUCAの時代に、社会心理学者の山岸俊男さんが提唱する「ヘッドライト型知性」という考え方は私たちに深い示唆を与えてくれます。

「ヘッドライト型知性」とは、夜道でライトが届く範囲を照らしながら進むように、見知らぬ他者とも関わりながら、未知の状況をその都度自分の目で確かめ、考え、判断しながら前に進む力のことです。

未来が霧に包まれているからこそ、過去の地図に頼り切りになるのではなく、自分が持つライトで足元を照らし、一歩ずつ道を選び取っていく。

それが、これからの時代を生きる皆さんに求められる姿勢です。

では、どうすればそのような「ヘッドライト型知性」を身につけることができるのでしょうか。山岸さんは、「不確実な世界だからこそ、信頼が必要になる」とおっしゃいます。まず、他者を信頼する勇気を持つこと。そして同時に、他者から信頼されるにふさわしい誠実な行動を積み重ねること。思いどおりにならないときがあっても、この地道な繰り返しを続けることこそが「ヘッドライト型知性」を磨くことになるとともに、信頼の力によって共に歩むライトが増えることで、私たちは新しい世界へ踏み出すさらなる勇気を得ることができるのです。

皆さんが、学習活動や、運動会や文化祭などの学校行事、部活動などに取り組む中で、納得解を目指して、ときにはリーダーとして、ときにはフォロワーとして、悩み、迷い、友と助け合った経験は、まさに他者との「信頼」を育ててきた尊い時間でした。

皆さんは、南高での日々を通して、「人を信じる力、異なる意見の人と共に歩く力」そして、「新しい世界へ踏み出す勇気」を確かに身につけました。

皆さんのこれからの道のりには、思いがけない出来事もあるでしょう。迷うこともあるかもしれませんが。そのようなときには、足元を照らしながらまず一歩を踏み出し、誰かと語り合い、信頼を育み、共に歩むライトを増やしながらかんでください。

皆さんの未来が、温かい出会いと学びに満ち、自分らしい歩みを重ねていく日々となることを、心から願っています。

卒業おめでとう。

皆さんには、新しい景色が待っています。さあ、行ってらっしゃい。恐れずに、しかし気をつけて。

名残は尽きませんが、巣立ちゆく348名の卒業生の皆さんの御多幸と御発展を心から祈念し、式辞といたします。

令和8年3月1日

愛媛県立松山南高等学校長 島瀬 省吾